

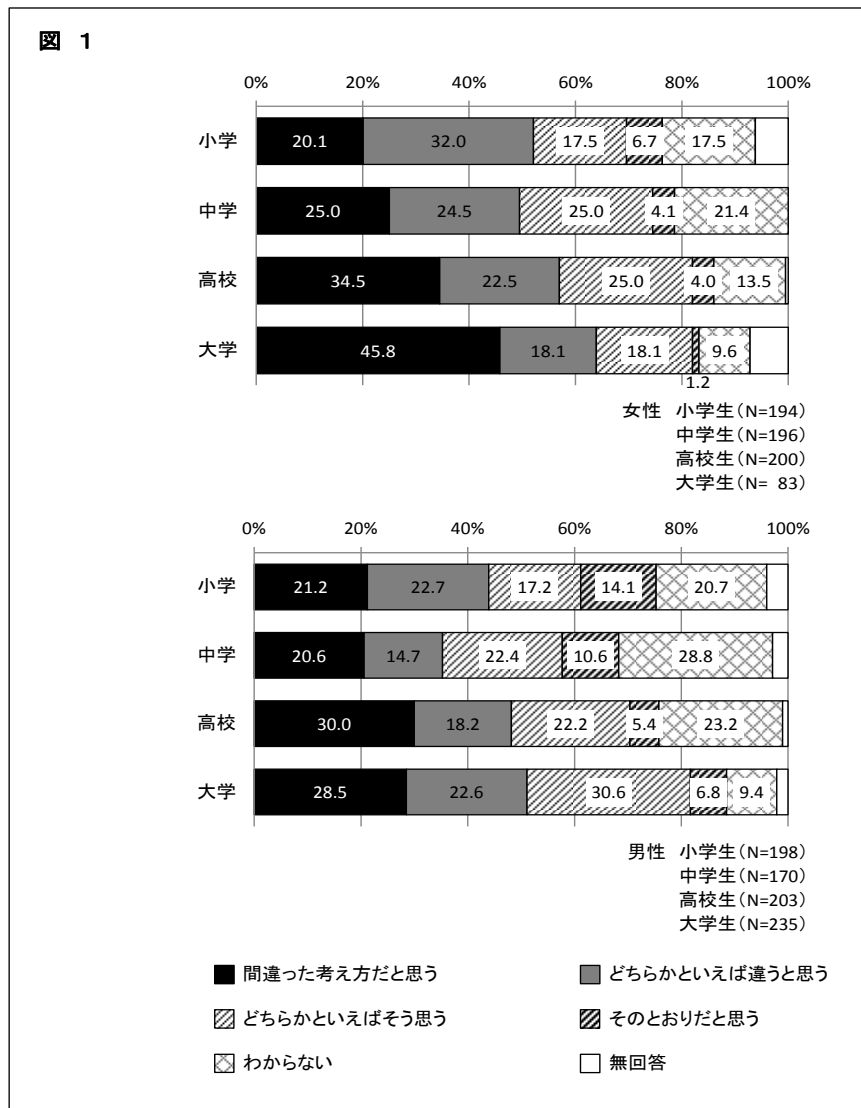
第5編 小学生、中学生、高校生、大学生の調査集計結果の比較編

I. 調査集計の比較結果

1. 「男は仕事をし、女は外で働かずに家事や子育てをする」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。

(小学問6、中学問7、高校問3、大学問3)

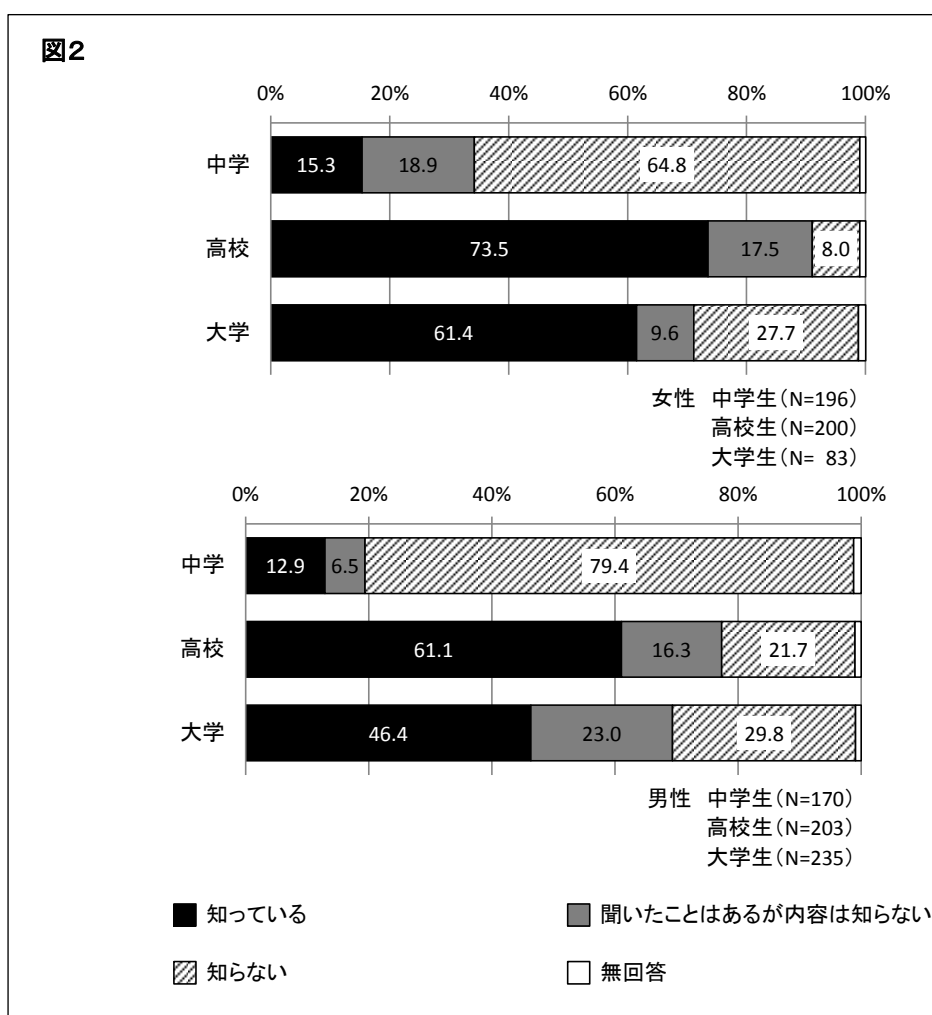
「間違った考え方だと思う」と「どちらかといえば違うと思う」を合わせた『間違った考え方』と回答した割合をみると、小学生では女性 52.1%、男性 43.9%だが、学年が上がるにつれて高くなり、大学生では女性 63.9%、男性 51.1%となっている。『間違った考え方』の割合を男女別に比較すると、小学生・中学生・高校生・大学生のすべてで女性は男性より高くなっている。



2. 「デートDV」について知っていますか。 (中学問 11、高校問 12、大学問 13)

中学生女性は「知っている」15.3%、中学生男性は「知っている」12.9%と認知率は低い。

高校生の認知率は男女とも高くなり、女性 73.5% (中学生女性より 58.2 ポイント高)、男性 61.1% (中学生男性より 48.2 ポイント高) である。大学生は低下している。



3. 次のようなことが、恋人の間で行われた場合、どう思いますか。 (中学問 12、高校問 14(1)、大学問 15(1))

「デートDVだと思う」割合で、各項目の集計結果を分析する。

なお、デートDVは、1. 身体的暴力、2. 精神的暴力(心理的暴力)、3. 社会的暴力、4. 性的暴力、5. 経済的暴力の5つに区分した。

<1. 身体的暴力>

• なぐるける突きとばす

女性では、中学生 82.7%、高校生 86.5%、大学生 78.3%となっている。
男性では、中学生 67.6%、高校生 71.4%、大学生 78.7%となっている。
男女とも認識率はかなり高い。

<2. 精神的暴力(心理的暴力)>

• 自分を常に優先してほしいと言う

女性では、中学生 3.1%、高校生 20.5%、大学生 15.7%となっている。
男性では、中学生 9.4%、高校生 17.2%、大学生 13.2%となっている。
男女とも認識率はかなり低い。

• 体型のことをあれこれ言う

女性では、中学生 24.5%、高校生 33.5%、大学生 38.6%となっている。
男性では、中学生 26.5%、高校生 26.6%、大学生 29.4%となっている。
男女とも認識率は低い。

• 常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

女性では、中学生 18.9%、高校生 37.0%、大学生 34.9%となっている。
男性では、中学生 28.2%、高校生 36.0%、大学生 26.0%となっている。
男女とも認識率は低い。

• 言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

女性では、中学生 33.7%、高校生 54.0%、大学生 48.2%となっている。
男性では、中学生 31.8%、高校生 36.5%、大学生 35.3%となっている。
男女とも認識率はやや低い。

- 大声でどなる

女性では、中学生 61.7%、高校生 74.0%、大学生 60.2%となっている。
男性では、中学生 50.0%、高校生 54.7%、大学生 60.9%となっている。
男女とも認識率は高い。

- 「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

女性では、中学生 64.8%、高校生 80.5%、大学生 73.5%となっている。
男性では、中学生 55.3%、高校生 61.1%、大学生 68.9%となっている。
男女とも認識率は高い。

- 物をこわしたり、物を投げる

女性では、中学生 79.1%、高校生 84.5%、大学生 78.3%となっている。
男性では、中学生 64.7%、高校生 69.0%、大学生 77.0%となっている。
男女とも認識率はかなり高い。

- なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

女性では、中学生 82.7%、高校生 87.0%、大学生 79.5%となっている。
男性では、中学生 66.5%、高校生 71.4%、大学生 78.7%となっている。
男女とも認識率はかなり高い。

< 3. 社会的暴力 >

- 「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする

女性では、中学生 15.8%、高校生 35.0%、大学生 34.9%となっている。
男性では、中学生 22.9%、高校生 25.6%、大学生 18.7%となっている。
男女とも認識率はやや低い。

- しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

女性では、中学生 27.0%、高校生 46.0%、大学生 41.0%となっている。
男性では、中学生 21.8%、高校生 35.5%、大学生 33.6%となっている。
男女とも認識率は低い。

- 携帯番号を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

女性では、中学生 57.1%、高校生 74.5%、大学生 66.3%となっている。

男性では、中学生 53.5%、高校生 60.6%、大学生 60.0%となっている。

男女とも認識率は高い。

- 家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する

女性では、中学生 59.7%、高校生 78.5%、大学生 69.9%となっている。

男性では、中学生 50.6%、高校生 56.7%、大学生 64.7%となっている。

男女とも認識率は高い。

<4. 性的暴力>

- いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

女性では、中学生 56.6%、高校生 66.0%、大学生 57.8%となっている。

男性では、中学生 45.3%、高校生 50.7%、大学生 52.8%となっている。

男女とも認識率はやや高い。

- キスや性的な行為を同意なく一方的にする

女性では、中学生 62.2%、高校生 76.5%、大学生 71.1%となっている。

男性では、中学生 55.9%、高校生 58.1%、大学生 66.4%となっている。

男女とも認識率は高い。

- 性的な画像や動画（写メ）などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

女性では、中学生 73.0%、高校生 82.0%、大学生 74.7%となっている。

男性では、中学生 58.2%、高校生 66.5%、大学生 71.1%となっている。

男女とも認識率はかなり高い。

<5. 経済的暴力>

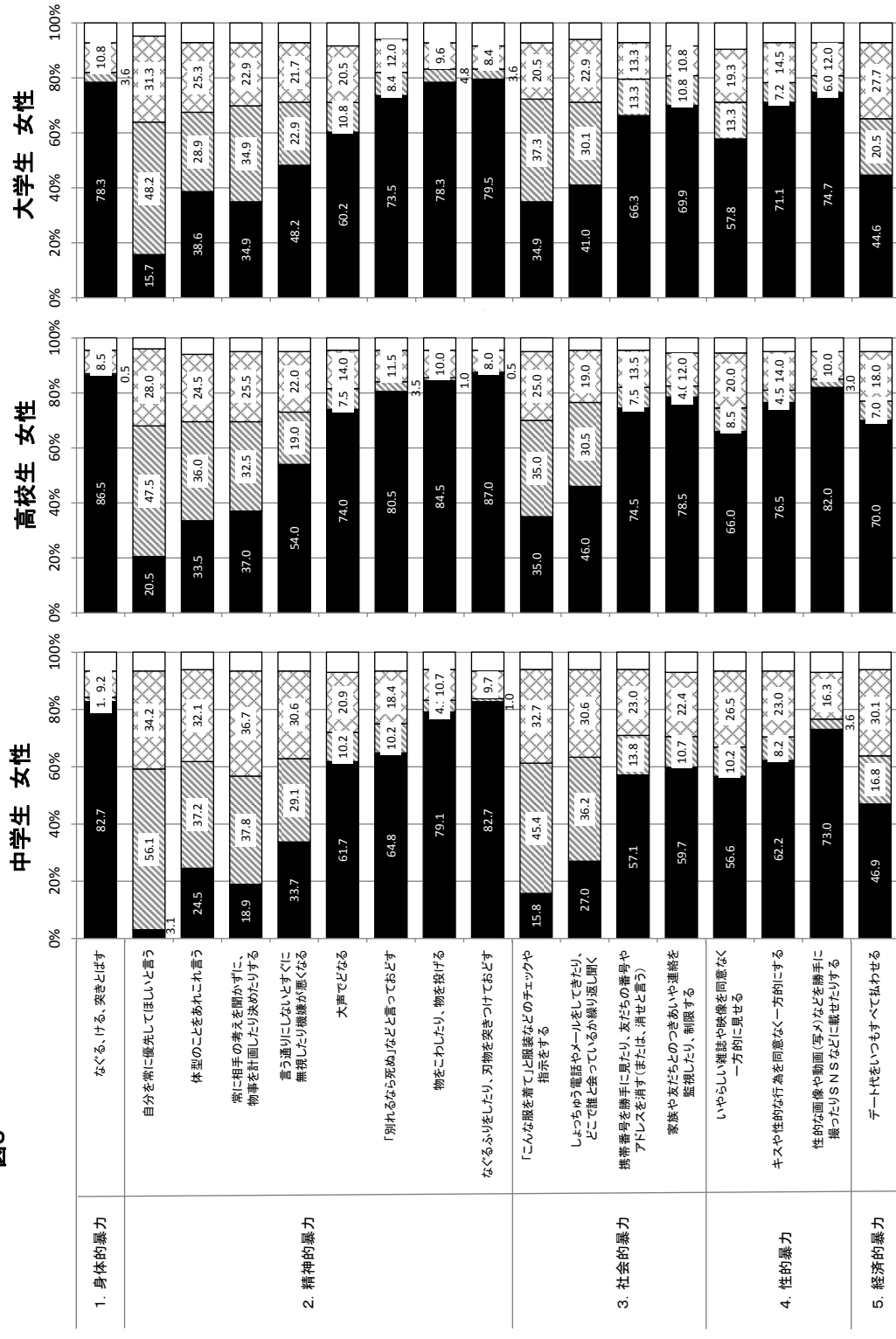
- デート代をいつもすべて払わせる

女性では、中学生 46.9%、高校生 70.0%、大学生 44.6%となっている。

男性では、中学生 40.0%、高校生 44.8%、大学生 53.6%となっている。

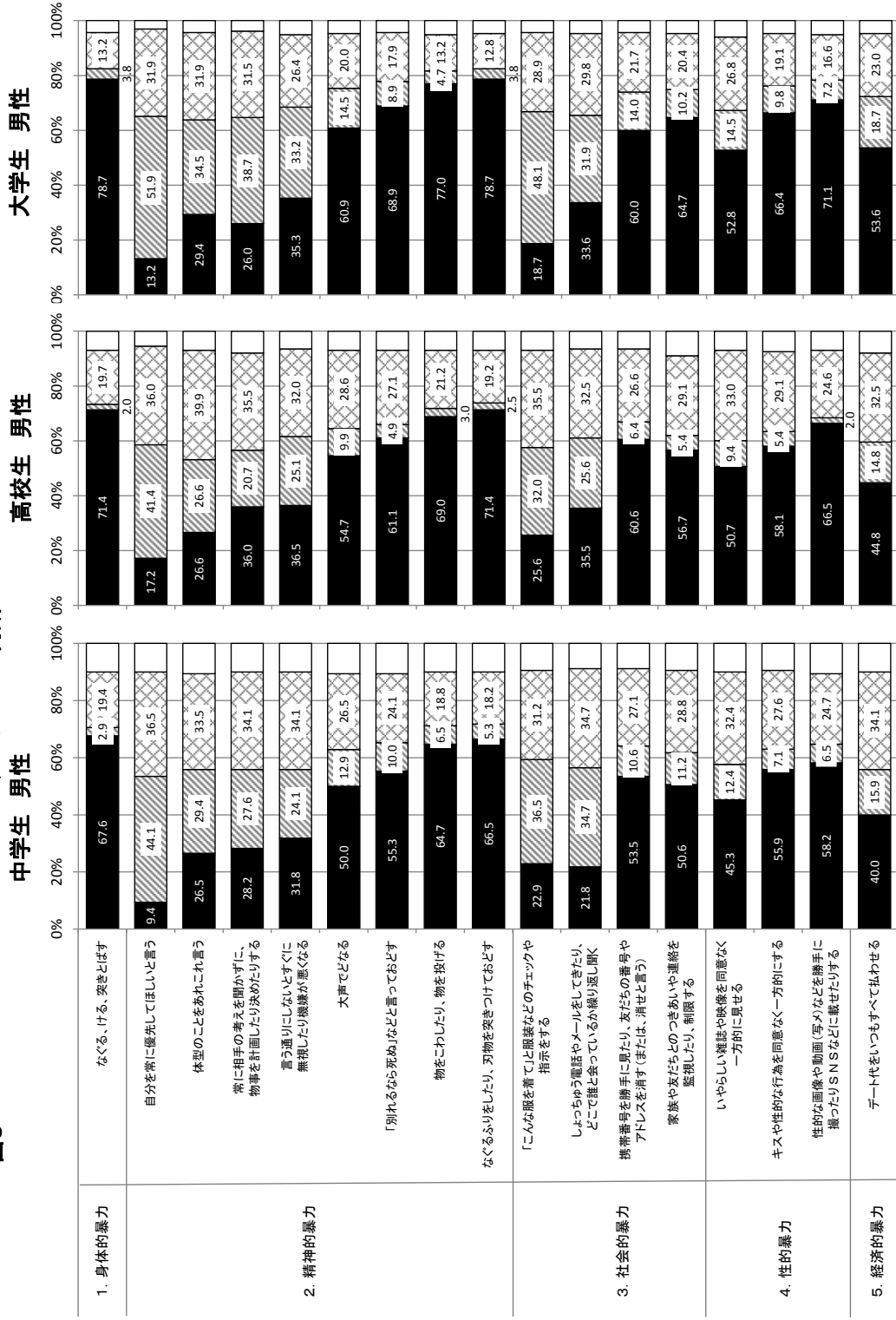
男女とも認識率はやや低い、高校生女性は他に比べかなり高い。

図3 デートDVの判断について



■デートDVだと思う □デートDVではないと思う □わからない □無回答
 女性 中学生 (N=196)
 高校生 (N=200)
 大学生 (N= 83)

図3 デートDVの判断について



男性 中学生 (N=170)
高校生 (N=203)
大学生 (N=235)

4. デートDVの経験はありますか。(高校問 14(2)、大学問 15(2))

<相手にされた経験>

相手にされた経験がある主な項目について、男女別、高校生大学生別に分析する。

【女性】

高校生では、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞き返す」(社会的暴力 14.0%) が最も高く、次いで「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 13.0%)、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 12.5%) となっている。また、性的暴力の「キスや性的な行為を同意なく一方的にする」(7.0%) や身体的暴力の「なぐる、ける、突きとばす」(5.0%) などのデートDVも受けるようになってきている。

大学生では、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 18.1%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞き返す」(社会的暴力 15.7%)、「体型のことをあれこれ言う」(精神的暴力 14.5%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 12.0%)、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 9.6%) となっている。

【男性】

高校生では、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 7.9%) が最も高く、次いで「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 5.4%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞き返す」(社会的暴力 高校生 3.4%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 高校生 3.0%) となっている。こちらも同様に精神的暴力や社会的暴力が中心で、身体的、性的、経済的暴力は 2.5%未満となっている。

大学生では、全体として高校生よりもデートDVを受ける割合が高くなる。「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 14.0%) が最も高く、次いで「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 13.6%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞き返す」(精神的暴力 12.3%)、「体型のことをあれこれ言う」(精神的暴力 7.7%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 7.2%) となっている。

経済的暴力の「デート代をいつもすべて払わせる」(3.8%)、身体的暴力の「なぐる、ける、突きとばす」(2.6%)、性的暴力の「キスや性的な行為を同意なく一方的にする」(2.6%) も少ない割合であるが、現れている。

<相手にした経験>

相手にした経験がある主な項目について、男女別、高校生大学生別に分析する。

【女性】

高校生では、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 3.0%) が最も高く、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 2.5%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 2.0%)、「体型のことをあれこれ言う」(精神的暴力 2.0%) となっている。

大学生では、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 7.2%)、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(精神的暴力 7.2%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 7.2%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く」(社会的暴力 7.2%) が最も高くなっている。

また、大学生になると、高校生に比べてデートDVをした割合が、多くの項目において高くなっている。

【男性】

高校生では、「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 5.4%) が最も高く、次いで「体型のことをあれこれ言う」(精神的暴力 4.9%)、「「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」(社会的暴力 4.9%)、「デート代をいつもすべて払わせる」(経済的暴力 4.4%)、「常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする」(精神的暴力 4.4%) となっている。

大学生では、「体型のことをあれこれ言う」(精神的暴力 3.8%) が最も高く、次いで「自分を常に優先してほしいと言う」(精神的暴力 3.4%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く」(社会的暴力 大学生 3.4%)、「デート代をいつもすべて払わせる」(経済的暴力 3.4%) となっている。

男性では、大学生になると高校生よりもデートDVをした経験の割合が減少している。

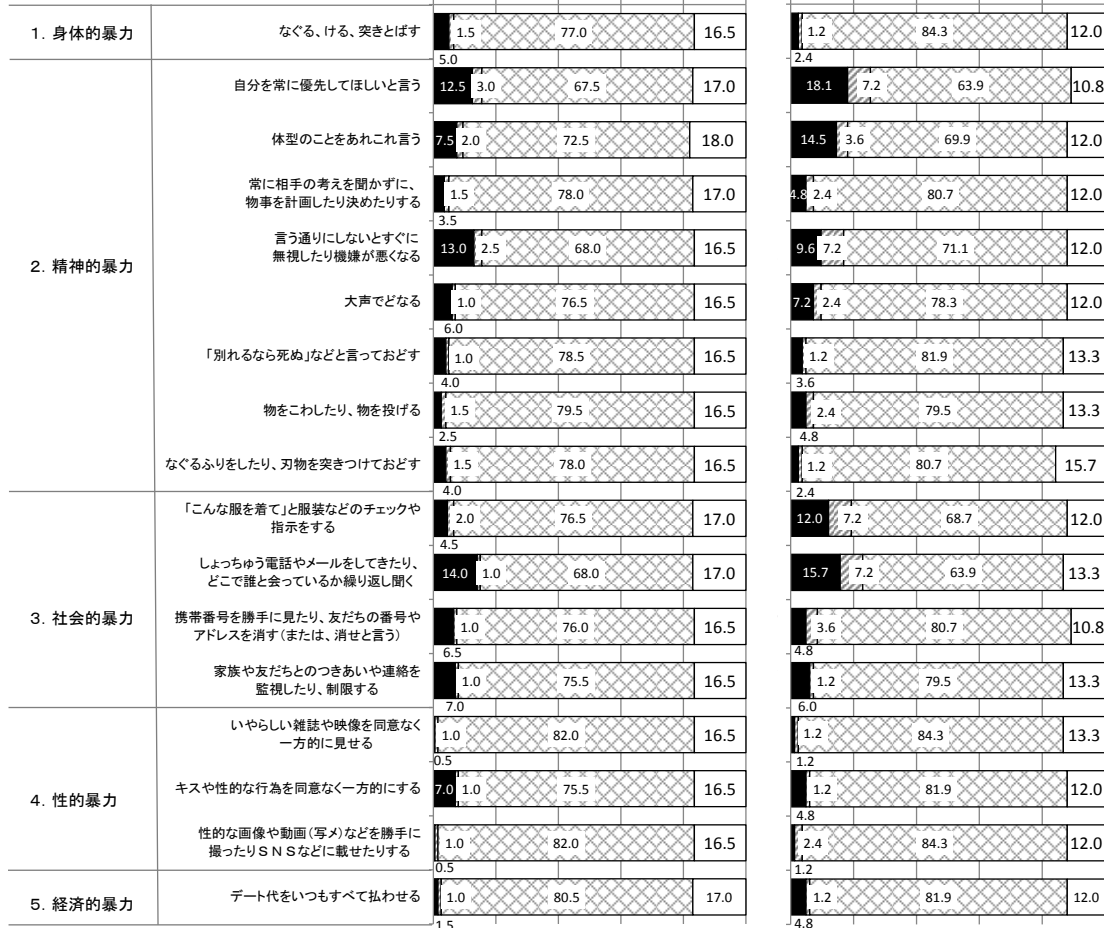
図4

デートDVの経験について

高校生 女性

大学生 女性

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 相手にされたことがある ▨ 相手にしたことがある
 ▩ 経験がない □ 無回答

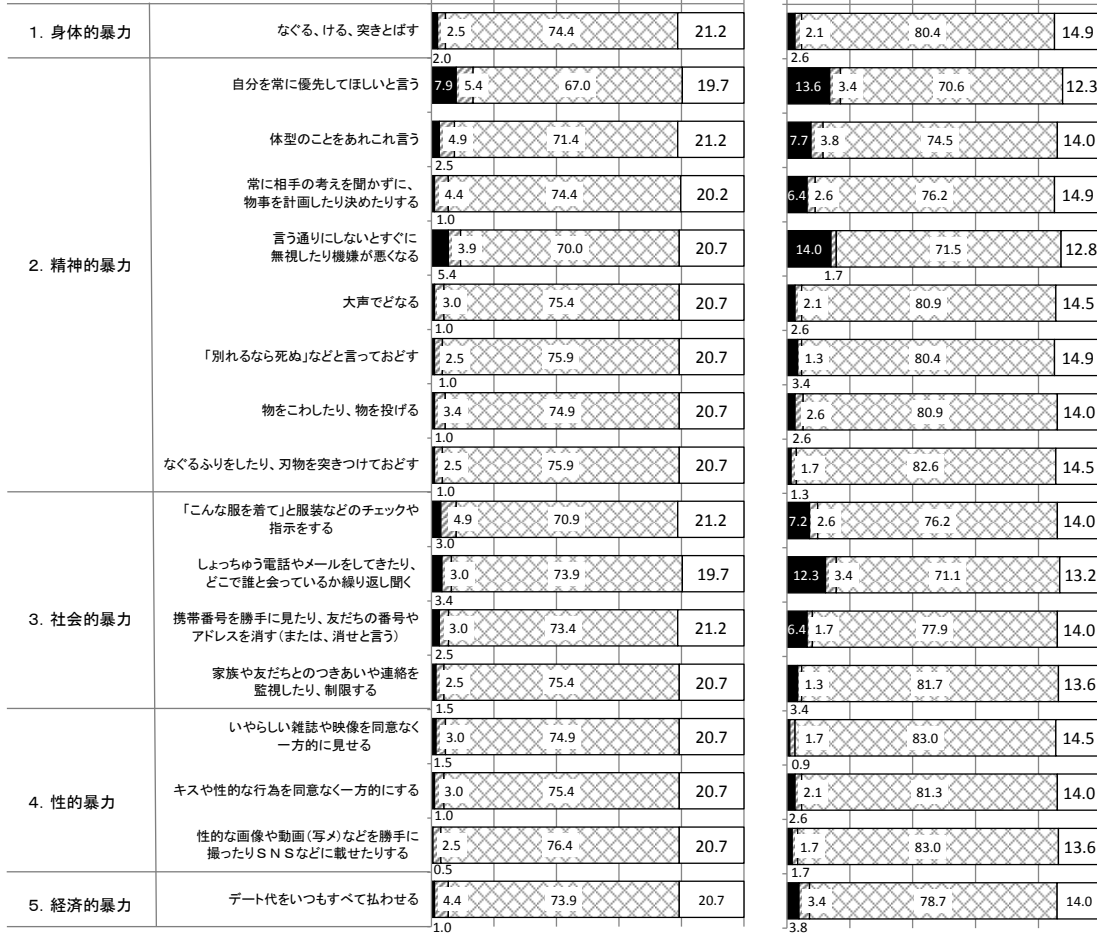
女性 高校生(N=200)
 大学生(N= 83)

図4 デートDVの経験について

高校生 男性

大学生 男性

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 相手にされたことがある ▨ 相手にしたことがある
 ▩ 経験がない □ 無回答

男性 高校生(N=203)
 大学生(N=235)

5. あなたは、女性が職業を持つことについてどのように考えますか。
(中学問 8、高校問 4、大学問 11)

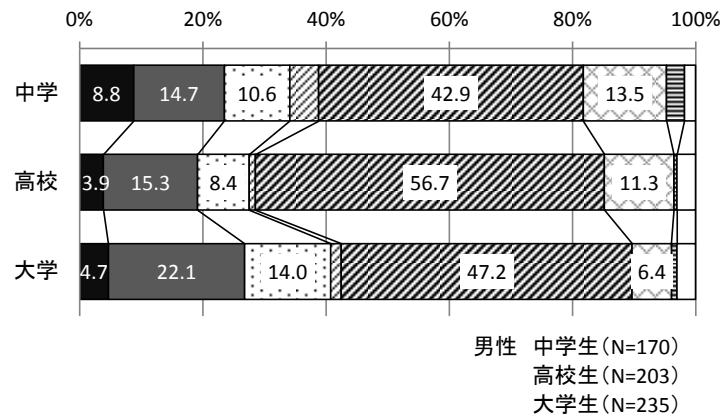
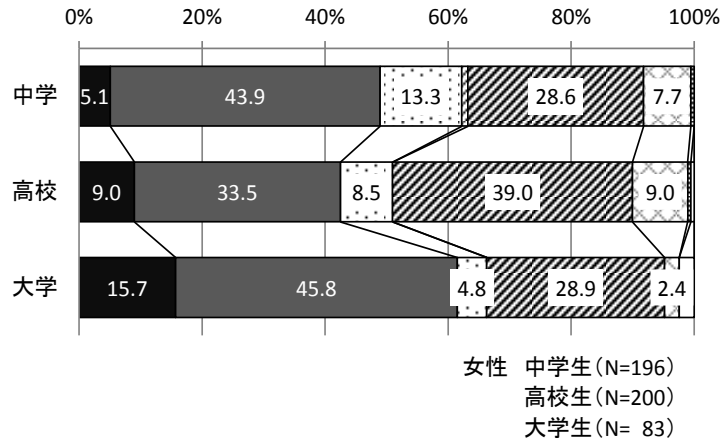
「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」は、中学生では女性 5.1%、男性 8.8%、高校生では女性 9.0%、男性 3.9%、大学生では女性 15.7%、男性 4.7%で、この項目の割合は全体として低い。

「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」は、中学生では女性 43.9%、男性 14.7%、高校生では女性 33.5%、男性 15.3%、大学生では女性 45.8%、男性 22.1%で、この項目の割合は女性が高い。

「女性の思うとおりにするのがよい」(中学生のアンケートでは「どちらでもよい」)は、中学生では女性 28.6%、男性 42.9%、高校生では女性 39.0%、男性 56.7%、大学生では女性 28.9%、男性 47.2%で、この項目の割合は男性が高い。

図5

女性が職業を持つことについて



- ずっと職業を続けるほうがよい
- 結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい
- 結婚や出産するまでの間だけ、職業を持つほうがよい
- ▨ 女性は職業を持たないほうがよい
- ▨ 女性の思うとおりにするのがよい(中学生は「どちらでもよい」)
- わからない
- ▨ その他
- 無回答

6. あなたに悩みや心配事がある時、相談できる人はいますか。

(小学問9、中学問15、高校問19)

【女性】

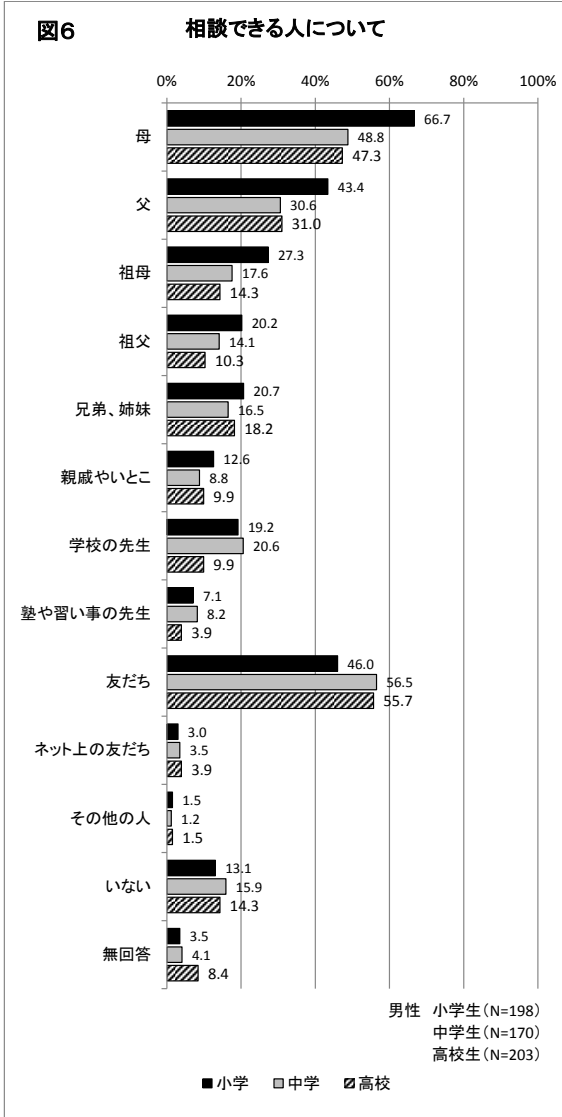
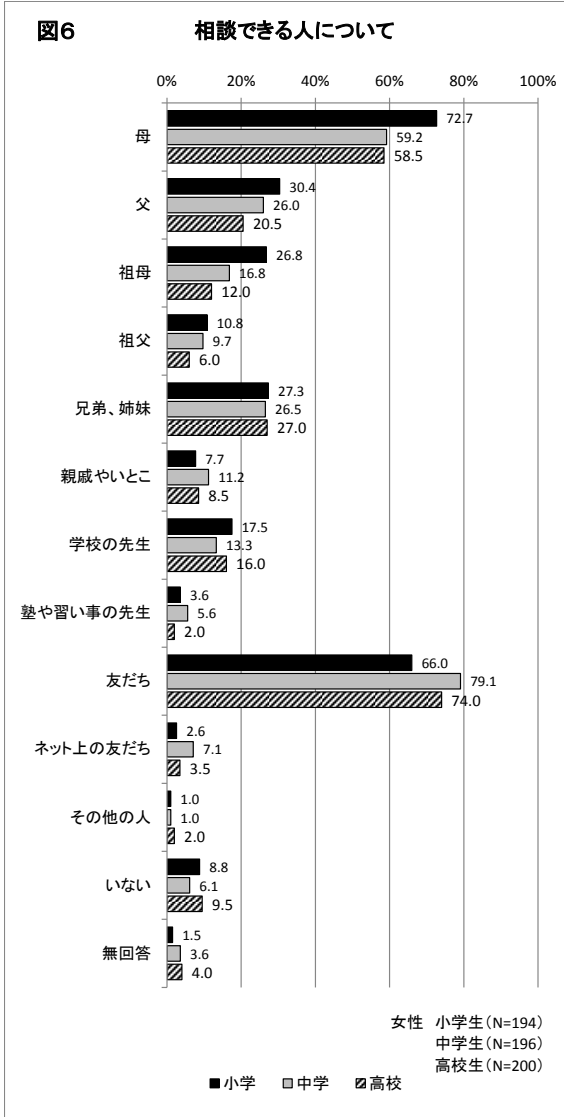
小学生は、「母」72.7%、「友だち」66.0%、「父」30.4%が主に相談する人になっている。「母」の割合は、中学生59.2%（小学生より13.5ポイント低）、高校生58.5%（小学生より14.2ポイント減少）と低下し、「父」の割合も中学生26.0%（小学生より4.4ポイント低）、高校生20.5%（小学生より9.9ポイント低）と低下する。

一方、「友だち」の割合は、中学生79.1%（小学生より13.1ポイント高）、高校生74.0%（小学生より8.0ポイント高）と高くなる。

【男性】

小学生は、「母」66.7%、「友だち」46.0%。「父」43.4%が主に相談する人になっている。「母」の割合は、中学生48.8%（小学生より17.9ポイント低）、高校生47.3%（小学生より19.4ポイント低）と低下し、「父」の割合も中学生30.6%（小学生より12.8ポイント低）、高校生31.0%（小学生より12.4ポイント低）と低下する。

一方、「友だち」の割合は、中学生56.5%（小学生より10.5ポイント高）、高校生55.7%（小学生より9.7ポイント高）と高くなる。



7. あなたは、自分のことが好きですか。
(小学問7、中学問13、高校問17)

「好き」と「どちらかと言えば好き」を合わせた『好き』の割合でみる。

【女性】

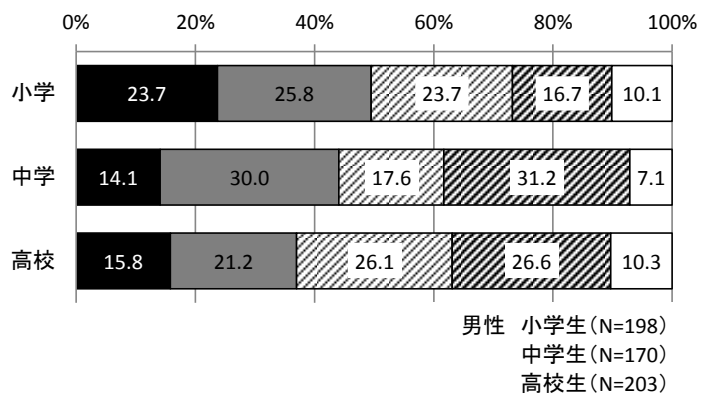
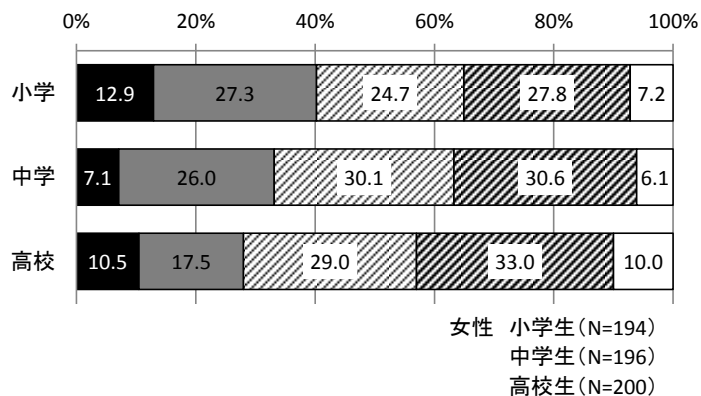
小学生 40.2%、中学生 33.1% (小学生より 7.1 ポイント低)、高校生 28.0% (小学生より 12.2 ポイント低) で、学年が上がるにつれて、『好き』(自己肯定) の割合は低くなる。

【男性】

小学生 49.5%、中学生 44.1% (小学生より 5.4 ポイント低)、高校生 37.0% (小学生より 12.5 ポイント低) で、学年が上がるにつれて、『好き』(自己肯定) の割合は低くなる。

図7

あなたは自分のことが好きですか



- 好き
- どちらかといえば好き
- ▨ どちらかといえば好きではない
- ▨ 好きではない
- 無回答

II. 課題

1. 「男は仕事をし、女は外で働かずに家事や子育てをする」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。

「間違った考え方だと思う」と考える女性は、学年が上がるにつれて高くなっていくが、男性については大きな変化は見られない。また、「どちらかと言えばそう思う」「そのとおりだと思う」と思う男女が、大学生女性を除き全学年通して3割程度いることから、固定的性別役割分担意識をなくし、お互いの意思が尊重される男女共同参画についての学習を早期の段階から実施していく必要がある。

2. 「デートDV」について知っていますか。

中学生、高校生、大学生におけるデートDVについては、教育での取り組みにより認知率に大きな差が出ている。デートDVの実状を踏まえれば、対象となりえる年頃までにデートDVについて学習する機会が必要である。

3、4. 次のようなことが、恋人の間で行われた場合、どう思いますか。また経験はありますか

「なぐる、ける、突き飛ばす」、「デート代を払わせる」、「家族や友だちとの付き合いや連絡を監視したり制限する」といった当人に実害が及ぶ行為については、デートDVであるとの認識が高いが、「自分を常に優先してほしい」といった自己中心的な行為では、認識が低い傾向にある。

行為の経験の有無については、女性の方がデートDVを受けている割合が高く、また、大学生になると高校生に比べ、男女ともデートDVを受けている割合が高くなっている。経験内容としては、デートDVとしての認識が低い項目の行為ほど経験者が多い。

また、無回答の割合がいずれの項目でも10%から20%前後存在しており、潜在的に行為の経験があるという可能性もあることから、当事者となる前に、どのような行為がデートDVにあたるのかを正しく学習することが未然防止に効果的であるため、教育・啓発の強化が必要である。

5. あなたは、女性が職業を持つことについてどのように考えますか。

女性については、学年が上がるにつれて、職業を持つことに肯定的な意志が明確化していくが、女性も仕事を担い自立するという意識は低い。また、男性は、女性が職業を持つことについて、自身との関連性や関心をもって捉える意識は低いことが伺える。

就労や将来のキャリアデザインについて、教育機関や事業所等からの啓発や情報提供を充実させる必要がある。また、家庭における教育や環境も意志決定に大きな影響を及ぼすので、幅広い世代に対し啓発していく必要がある。

6. あなたに悩みや心配事がある時、相談できる人はいますか。

女性に比べ、男性は悩みを相談できる人が少なく、弱みを見せることに抵抗感があり、ジェンダー意識にとらわれがちであることから、家庭や教育の場でジェンダーに基づく偏見等をなくす取組を充実させる必要がある。

また、相談相手については、男女いずれも親が多い。しかし、家庭同様に生活時間の多くを過ごす学校での相談相手は、友人が多い傾向にあるものの、学校の先生への相談は少なく、児童や生徒が安心して相談できる環境作りも同時に進めていく必要がある。

7. あなたは、自分のことが好きですか。

どの学年においても、男性に比べて女性は自己肯定感が10%程度低く、また、学年が上がるにつれて男女とも10%程度低下している。

女性は男性よりも多く、また学年が上がるほど、他者との比較が増え、劣等感を抱いていることが伺える。子どもの頃から、お互いの違いや考えを尊重できる関係づくりを学び、実践していくことが重要である。

【アドバイザーからの意見】

人の意識の形成過程は幼少期から影響を受けることは言うまでもありません。家庭内では母親・父親や祖父母の言動の影響を受けますし、就学期に入ると先生や周りのおとなの影響を受けて育ちます。学年が上がるに連れて男女平等の意識が高くなっていくのは教育の影響が大きく作用していると考えられます。しかし、実施校と非実施校では子どもの意識は変わってきます。

教育は全ての人に等しく知識情報を伝えることが出来ますから、全ての学校の取り組みを充実させてほしいと思います。そこで子どもたちが知るべき社会の問題（DV・セクハラ・男女共同参画や労働の問題）は多岐にわたるはずで、子どもはおとなが想像する以上に素直に受け入れ吸収していきます。

性教育の充実も性被害者・加害者をつくらないためのひとつの手段として捉えて推進してほしいと思います。